

碑云、五月五日、時迎伍君、逆濤而上、爲水所淹、斯又東吳之俗、事在子胥、不關屈平也、越地傳云、起於越王勾踐、不可詳矣、

〔日本歲時記〕四五月、端午と云、又重五ともいふ、五雜俎にいはく、張九齡上、大衍曆序にいはく、謹く、月惟仲秋、日在端午、まかる時は、凡毎月の五日、みな端午と稱すべし、此月にのみ限るべからずと、なん、まかれども、世俗には、專五月五日を端午と稱す、

〔隨意錄〕六五月五日曰重五、九月九日曰重九、宋王楙野客叢書云、三月三日、亦宜曰重三、觀張說文集、三月三日詩、暮春三月日重三、又曲水侍宴詩、三月重三日、此可據也、予謂重三則可言也、更稱三月者、無乃鄭重乎、曰九月重九、五月重五者、未之見也、

〔秋苑日涉〕六民間歲節上、五月五日謂之端午、中珊瑚鉤詩話曰、端五之號、同於重九、後世以五

字爲午則誤矣、事言要玄曰、歲時記、京師以五月一日爲端一、二日爲端二、三日爲端三、四日爲端四、五日爲端五、提要錄、五月五日爲天中節、容齋隨筆曰、唐玄宗以八月五日爲千秋節、張說上大衍曆

序云、謹以開元十六年八月端午獻之、唐類表、有宋璟請八月五日爲千秋節表、云、月惟仲秋、日在端午、然則凡月之五日、皆可稱端午也、僕觀續世說、齊映爲江西觀察使、因德宗誕日端午、爲銀餅高八尺、以

獻、是亦有端午之說、農圃六書曰、初五日爲地臘、又曰蒲節、艾節、午時謂之天中節、諸國年中行事大成三五月、端午又重五今日家々に飾胃、菖蒲刀、中あるひは武將の人形

を飾る、略中、是を俗に男の節句といふて、専ら男兒の翫とす、略〔令義解〕十凡正月一日、略中、五月五日、略中、皆爲節日、其普賜、臨時聽勅、

〔延喜式〕四十五小儀、謂告朔〔中略〕五月五日、略中、又見左右衛門式、左右兵衛式、〔公事根源〕五月五日節會、

天皇武德殿に出御なりて、宴會をおこなはれ、群臣に酒を給ふなり、内辨なども四節に同じ、人々みなおやめのかづらをかく、日蔭のかづらのごとし、典藥寮あやめの御案をたてまつる、群臣に

五日節會